

(様式第4号)

上田市行財政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第5回 上田市行財政改革推進委員会
2	日時	平成21年7月16日(木) 午前10時から午前11時53分まで
3	会場	上田市役所本庁舎5階 第1・2委員会室
4	出席者	小池会長、宮沢副会長、鬼頭委員、斉藤委員、塩入委員、武井委員、田中委員、南雲委員、西沢委員、三井委員、宮下委員 【欠席】櫻井委員、高橋委員、堀内委員、森田委員
6	市出席者	金子行政改革推進室長、鎌原係長、星野主査、市川主査
7	公開・非公開等の別	公開
8	傍聴者	1人 記者 0人
9	会議概要作成年月日	平成21年7月27日

協議事項等

1 開 会 (行政改革推進室長)

あいさつ (会長)

2 議事

(1) 前回会議録の確認について

(事務局) 前回の会議では、提案公募型民間活力導入制度の先進自治体である千葉県我孫子市と佐賀県の事例について報告するとともに、上田市としての方針を説明し、ご審議いただいた。会議録の内容について、訂正があれば事務局に申し出ていただきたい。訂正後、ホームページに掲載する。

(2) 提案公募型民間活力導入制度の創設について

ア 日本における民間活力導入の経過について

(事務局) 日本における民間活力導入の経過について説明

(委員) 上田市における民間活力の導入状況はどうか。

(事務局) 上田市の公の施設の管理運営について、現在151施設について、指定管理者制度を導入している。また、公の施設の管理運営以外の公共サービスについては、市場化テストは導入していないが、特殊な技術や知識を要する業務等において業務委託を行っている。

イ 公共サービス改革法と市場化テスト、我孫子市と佐賀県の事例の概要について

(事務局) 公共サービス改革法と市場化テスト、我孫子市と佐賀県の事例の概要について説明

(委員) 官民競争入札では、官が落札者を決定するのか。

(事務局) 第三者機関を設置し、プロセスの透明性・中立性・公平性を確保した上で、落札者を決定する。

(委員) 上田市で提案公募型民間活力導入制度を導入した場合、民間活力導入の手法として、市場化テストも含まれるのか。

(事務局) 市場化テストを利用して業務の委託化等を行う提案も考えられる。

(委員) 長野県下で市場化テストを導入しているのは南牧村のみか。

(事務局) 個人情報保護等の観点から公務員が行うべきものとされている戸籍謄本の発行等、特定公共サービスについては、公共サービス改革法に基づき市場化テストを実施することができるが、実施している自治体は長野県の南牧村と北海道の由仁町のみ。

また、特定公共サービス以外の業務については、公共サービス改革法に準じて市場化テストを実施することができるが、導入している自治体は東京都や北海道、大阪府等、全国的に見てもそれほど多くない。

- (委員) 上田市で提案公募型民間活力導入制度を導入して、市場化テストにより業務を委託して欲しいという提案があった場合には、市場化テストを実施するのか。
- (事務局) 提案により官民競争入札を実施することもあるが、市場化テストを実施するスケールメリットのある業務はかなり限定されるのではないかと考えている。
- (委員) 法に基づく市場化テストを実施した自治体は、全国でも2つしかないということだが、メリットがないということか。
- (事務局) 例えば、戸籍謄本の交付を委託する場合、申請の受付や文書の引渡し等、業務の一部は委託できるが、交付の決定自体は委託できないため、業務を委託するメリットがあまり生じず、導入が進まないのではないかと考えている。

ウ 上田市提案公募型民間活力導入制度(案)について

- (事務局) 上田市提案公募型民間活力導入制度(案)について説明
- (会長) 現時点における事務局案が提示されたので、本日はこれに対して意見を出していただき、次回からは項目ごとに審議していきたい。
- (委員) 集中改革プランの取組等がなかなか進まない中で、全ての事務事業をリスト化して公表するというのがすぐにできるのか。
逆に、市が見直しをしている事業に限定した場合、市としてはやめたい事業だから、果たして提案が出されるかどうか疑問。
- (委員) 全事務事業をリスト化して提案を募集した我孫子市では、初年度は80件近くの提案があったが、第二次募集で6件まで減少し、現在制度の見直しをしている。
上田市には千以上の事業があるが、全てをリスト化して募集するのは現実的ではない。
- (委員) 我孫子市でも制度を見直していることから、民間から果たして提案してもらえるかどうか懸念される。
民間事業者にやってもらえるような事務事業を選定する必要があるのではないか。
- (事務局) 活発に提案してもらうためには、民間が魅力を感じる事業を対象に募集するしかない。
どのような事業に対して民間が魅力を感じるかどうかについては、審議会で意見をいただきたい。
- (委員) 我孫子市でもいろいろな提案が出されたが、採用して実行されるまで大変な苦労があるということなので、さまざまな工夫をする必要があるのでは。
また、市民協働で行うとしても、果たしてうまくいくかどうか判断が難しい面がある。
- (委員) 募集する事務事業の範囲に最初から制約をかけてしまうのでは制度の趣旨に反する。
ただし、自由にどこからでもというのでは提案しにくいのも事実。
今後の議論では、募集条件や選定等の基準をどこに持っていきかが重要になる。
また、せっかく提案してもらっても、提案に対するフォローがなければ、提案者のモチベーションが下がってしまうが、何か考えているか。
- (事務局) 最初から完全な提案は難しいと思うので、提案者と担当課で協議して提案を完成させるなど、提案をなるべく採用できるような運用を行っていきたい。
- (委員) 制度を活用するためにはどのような運用基準をつくるかが重要になる。
- (委員) 先進自治体の我孫子市では提案が減少し、制度を見直している状態だが、それでも上田市では制度を導入するのか。
- (事務局) 我孫子市では事務事業の委託化・民営化の提案を中心とした募集だが、上田市の制度としては、佐賀県の事例を参考に市民協働の提案も募集するなど、提案を募集しやすいように制度の内容を充実していきたい。
- (委員) 我孫子市や佐賀県の課題を徹底的に分析して、革新的な制度となることを期待したい。
企業やNPO法人に興味を持ってもらうためには利益率の高い仕事を出すべき。
企業やNPO法人の経営が成り立つような人的・財政的支援を含めた制度にすべきでは。
- (委員) 提案内容について、どこまで高度なものを募集するかによって、提案者のモチベーショ

ンも変わってくる。

3 次回の日程について

・8月4日(火) 午後2時から 真田地域自治センター3階 301会議室

4 閉会

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。